

ボートレース収益使いみち 動画で

企業団構成自治体で初の試み 9月11 日(金)公開

枚方市は、大阪府都市ボートレース企業団から配分される売上金の使い道をPRする動画を制作した。配分額は毎年5億円前後にのぼり小・中学校のトイレ整備など校舎の維持管理に使われる貴重な財源となっていることから、使い道を広く周知したいと新たな手法に取り組んだ。同企業団を構成する府内16市で初の試み。

動画は長さ1分と30秒の2種類。女子トップレーサー鎌倉涼（かまくら・りょう）選手が「子どもたちの未来を応援しています」とメッセージを熱く語る。9月11日(金)から市公式YouTubeで配信するほか26・27日開催の枚方まつりでも披露される(27日)。

★ボートレースは競馬、競輪、オートレースと同じ公営競技の一つで地方公共団体が主催する。枚方市は大阪府都市ボートレース企業団を構成する府内16市の一つで、同企業団の前身・大阪府都市競艇組合が設立された昭和27(1952)年から地方財源への寄与などを目的にボートレース事業に取り組んでおり、同企業団がボートレース住之江(大阪市住之江区泉1／写真右)で開催する全てのレースの売上金から、的中者への払い戻し額や開催経費などを差し引いた利益配分金(実配分金)を毎年受け取っている。令和7(2025)年度の配分額は5億2566万3367円(前年度開催分)。



※動画より

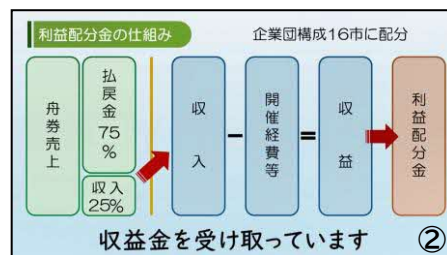
★配分金は市内に63ある市立小中学校のトイレ改修やエレベーター・エアコン設置、校舎の外壁補修(写真右)など老朽化が進む学校設備の維持管理に必要な工事費に充てている。毎年5億円前後におよぶ配分金は貴重な財源であることから、市はこれまでから公式ホームページで配分金の活用事例や配分額を年度別に紹介したり、市制施行の周年事業で主催レースを開催したりするなど、ボートレースの収益がまちづくりに生かされていることの周知に努めてきた。動画制作は、これまでにない新たな手法でより幅広い世代にアピールすることを狙いとして初めて取り組んだもの。



※動画より

(裏面に続く)

★動画は長さ 1 分と 30 秒の 2 種類で内容は次の通り。
 教室や校庭で楽しく学校生活を送る小学生の姿をバックに「ボートレースの収益が枚方市の子どもたちの未来を支えています」のタイトル⇒(右写真①)レース映像から大阪府都市ボートレース企業団や利益配分の仕組みを紹介する図とナレーション(同②)⇒収益金の主な使い道としてトイレや渡り廊下など校舎の改修、新たに設置されたエアコン映像⇒史上初めて同一年度女子 P G 1 を制覇した人気ボートレーサーの鎌倉涼(かまくら・りょう)選手がボートレース住之江を背景に「私たちが子どもたちの未来を応援しています」とコメント(同③)⇒枚方の遠景をバックに再びオープニングタイトルが出てエンディング(同④)。



★鎌倉選手の出演に際しては、選手会との調整をはじめ台本の事前確認、撮影場所や時間の選定など大阪府都市ボートレース企業団が窓口となり、全面的な協力を得たおかげで撮影作業はスムーズに運んだ。同企業団企画宣伝課主査の、消芙美佳(みなもと・ふみか)さんは「動画がボートレースの意義を知ってもらうきっかけになれば私たち企業団にとってもうれしいです」と笑顔で話す。



★完成した動画は 9 月 11 日(金)から市公式 YouTube で配信するほか市役所周辺のデジタルサイネージで順次放映を開始する。また、9 月 26 日(土)・27 日(日)に市役所周辺で開催される「枚方まつり」では、大阪府都市ボートレース企業団が 27 日に設置する特設ブースで放映される予定。動画制作を担当した市観光交流課の和田みずき主任は「一人でも多くの市民に観てもらえるようしっかり P R していきたい」と力を込める。



※いずれも動画より

★大阪府都市ボートレース企業団の構成自治体は、枚方のほか堺・岸和田・豊中・東大阪・池田・吹田・泉大津・高槻・貝塚・守口・茨木・八尾・泉佐野・富田林・寝屋川の計 16 市。管理者である企業長は各市の首長から互選で選任され、議会は各市から市議会議員 1 人を派遣。年 3 回の定例会が開かれる。事務所はボートレース住之江内。

<問い合わせ> 枚方市観光にぎわい部 観光交流課

☎072-841-1357 (直通) / FAX072-841-1278 / メールアドレス sanbun@city.hirakata.osaka.jp